2027年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年８月７日

上 場 会 社 名　　フジ日本株式会社　　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　　2114　　URL https://www.fuji-nihon.com
代　　表　　者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）曾我　英俊
問合せ先責任者　（役職名）財務経理室室長　（氏名）杉山　伸　TEL　03-3667-7811

配当支払開始予定日　　―
決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第１四半期の連結業績（2026年４月１日～2026年６月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期第１四半期	7,274	2.3	984	30.2	1,152	31.1	793	29.2
2026年３月期第１四半期	7,107	5.3	756	△8.3	879	△10.8	613	△14.8

（注）包括利益　2027年３月期第１四半期　439百万円（△52.9%）2026年３月期第１四半期　934百万円（49.4%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期第１四半期	15.46	―
2026年３月期第１四半期	11.96	―

（注）当社は、2026年１月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。そのため前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「１株当たり四半期純利益」を算定しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期第１四半期	38,112	27,845	72.9
2026年３月期	38,732	27,944	72.0

（参考）自己資本　2027年３月期第１四半期　27,802百万円　　2026年３月期　27,900百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	15.00	―	10.50	―
2027年３月期	―				
2027年３月期(予想)		8.00	―	11.00	19.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

当社は、2026年1月1日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。2026年３月期の１株当たり期末配当金については、当該株式分割の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「―」と記載しております。

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,700	4.4	3,300	△7.1	3,500	△7.3	2,500	△22.4	48.73

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　有

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期１Ｑ	51,437,400株	2026年３月期	51,437,400株
②　期末自己株式数	2027年３月期１Ｑ	137,228株	2026年３月期	137,228株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年３月期１Ｑ	51,300,172株	2026年３月期１Ｑ	51,302,333株

(注)当社は2026年１月１日付で普通株式１株につき２株の割合で株式分割を行っております。そのため前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」「期末自己株式数」「期中平均株式数」を算定しております。

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
第１四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
第１四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 8
（会計方針の変更） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（重要な後発事象） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な雇用情勢や賃金上昇を背景として緩やかな回復基調を維持したものの、物価上昇の継続、国際情勢の変化に伴うエネルギー・原材料価格の変動および為替相場の不安定な動向などから、先行き不透明な状況が続きました。食品業界においては、各種コストの上昇圧力が継続する一方で、消費者の節約志向への対応が求められるなど、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境下、当社グループでは、2024年４月に中期経営計画「CHANGE 2028」を策定し、１．東南アジアでの事業拡大、２．フードサイエンス領域の事業創出、３．M&Aを軸とした成長投資、４．ビジョン実現に向けた強い組織づくり、５．IRの強化と株主還元の５つの重点テーマで策定した計画を推進し、実績は堅調に推移しております。

当第１四半期連結累計期間の業績は、売上高7,274百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益984百万円（同30.2%増）、経常利益1,152百万円（同31.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は793百万円（同29.2%増）の増収増益となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 糖類

海外原糖市況は、期初に¢15.44（１ポンド当たり）で始まり、５月上旬には中東情勢を背景とした原油価格の上昇や、インドの輸出制限情報、エルニーニョ現象による供給不安等を背景に一時¢15.49まで上昇しました。その後は、ブラジルやタイの増産見通しや原油価格の下落を背景に世界的な供給過剰観測が強まり、軟調な展開となりました。ブラジルの生産増加やタイの輸出増加が継続的に意識されたことから、６月後半には一時¢13台前半まで下落しました。一方で、インドのモンスーン降雨不足やエルニーニョ現象による主要生産国での供給減懸念が高まったことから買い戻しが進み、中東情勢の不透明感もあり相場は反発しました。この結果、海外原糖市況は¢14.34で第１四半期末を迎えました。

一方、国内製品市況は、期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）241円～243円（上白大袋１キログラム当たり）で始まりました。製品の荷動きについて、訪日外国人客数の増加に伴うインバウンド需要が引き続き旺盛であったことに加え、天候が安定したことによる消費機会の増加や、円安による国内旅行者の増加、ゴールデンウィークをはじめとする各種イベント開催による集客効果もあり、観光・外食関連向けの販売が堅調に推移し、販売数量は前年同期比増となりましたが、昨年11月の製品値下げにより販売単価が下落となりました。コスト面では原材料費、物流コストが増加したものの、堅実で安定した原料調達を図り、コスト削減に努めました。

以上の結果、売上高3,357百万円（前年同期比3.3%減）、営業利益628百万円（同7.4%増）の減収増益となりました。

② 機能性素材

機能性食品素材「イヌリン」は、原材料コストが高止まり、国内物流コストが上昇するなか、国内販売では機能性表示食品を含む健康機能商品向けの販売が堅調に推移し、販売数量は前年同期比増となりました。連結子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.では、前年同期において、設備更新による一時的な操業停止があった反動、東南アジア各国向け販売が好調に推移したことから、前年同期比で大幅な増収増益となりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、コラーゲンを中心に売上数量を伸ばし、ODM・商品開発コンサルティング事業も堅調に推移した結果、増収増益となりました。

以上の結果、機能性素材事業全体で、売上高3,692百万円（前年同期比7.8%増）、営業利益498百万円（同72.7%増）の増収増益となりました。

③ 不動産

不動産事業は、売上高153百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益138百万円（同2.8%減）の減収減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献しました。

（２）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1.6%減少し、38,112百万円となりました。

当第１四半期連結累計期間における各財政状態の変動状況は、次のとおりであります。

① 資産

資産につきましては、流動資産で前連結会計年度末に比べ8.7%減少し、17,630百万円となりました。これは主に棚卸資産の増加があったものの、現金及び預金、受取手形、売掛金及び契約資産が減少したことなどによるものであります。

また、固定資産は前連結会計年度末に比べ5.5%増加し、20,481百万円となりました。これは主に土地、建設仮勘定が増加したことなどによるものであります。

② 負債

負債につきましては、流動負債で前連結会計年度末に比べ0.4%増加し、5,551百万円となりました。これは主に未払法人税等、賞与引当金の減少があったものの、買掛金、短期借入金、未払消費税等が増加したことなどによるものであります。

また、固定負債は前連結会計年度末に比べ10.4%減少し、4,715百万円となりました。これは主に長期借入金、繰延税金負債が減少したことなどによるものであります。

③ 純資産

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ0.4%減少し、27,845百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加があったものの、その他有価証券評価差額金が減少したこと、剰余金の配当が増加したことなどによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第１四半期の連結業績は、2026年４月30日に開示しました連結業績予想に対して概ね計画どおりに推移しております。よって、2027年３月期の連結業績予想は修正しておりません。

なお、業績予想につきましては、当社が発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (2026年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,243	6,138
受取手形、売掛金及び契約資産	3,947	3,805
商品及び製品	3,208	3,355
仕掛品	129	290
原材料及び貯蔵品	1,652	1,789
リース投資資産	938	935
その他	1,201	1,318
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	19,317	17,630
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	305	299
機械装置及び運搬具（純額）	475	474
土地	1,783	2,368
建設仮勘定	709	1,701
その他（純額）	149	139
有形固定資産合計	3,424	4,983
無形固定資産		
その他	67	67
無形固定資産合計	67	67
投資その他の資産		
投資有価証券	13,618	13,138
関係会社長期貸付金	1,740	1,740
退職給付に係る資産	275	255
その他	291	298
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	15,923	15,430
固定資産合計	19,414	20,481
資産合計	38,732	38,112

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年３月31日)	当第１四半期連結会計期間 (2026年６月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,889	2,103
短期借入金	1,693	1,784
１年内返済予定の長期借入金	312	312
未払法人税等	646	326
未払消費税等	57	162
賞与引当金	185	92
その他	744	770
流動負債合計	5,528	5,551
固定負債		
長期借入金	2,928	2,519
繰延税金負債	1,737	1,602
資産除去債務	79	79
その他	515	514
固定負債合計	5,260	4,715
負債合計	10,788	10,267
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,524	1,524
資本剰余金	2,048	2,048
利益剰余金	20,091	20,345
自己株式	△16	△16
株主資本合計	23,647	23,901
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,879	3,539
為替換算調整勘定	274	280
退職給付に係る調整累計額	99	81
その他の包括利益累計額合計	4,253	3,900
非支配株主持分	43	43
純資産合計	27,944	27,845
負債純資産合計	38,732	38,112

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年６月30日）
売上高	7,107	7,274
売上原価	5,299	5,192
売上総利益	1,808	2,081
販売費及び一般管理費	1,051	1,097
営業利益	756	984
営業外収益		
受取利息	10	29
受取配当金	122	110
為替差益	－	－
持分法による投資利益	0	44
その他	13	9
営業外収益合計	148	193
営業外費用		
支払利息	13	22
為替差損	12	1
その他	0	2
営業外費用合計	25	25
経常利益	879	1,152
特別利益		
固定資産売却益	0	－
投資有価証券売却益	32	－
特別利益合計	32	－
特別損失		
固定資産除却損	0	－
特別損失合計	0	－
税金等調整前四半期純利益	910	1,152
法人税、住民税及び事業税	251	328
法人税等調整額	50	30
法人税等合計	301	359
四半期純利益	609	792
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△4	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	613	793

四半期連結包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2025年４月１日 至 2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2026年４月１日 至 2026年６月30日）
四半期純利益	609	792
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	320	△340
為替換算調整勘定	2	5
退職給付に係る調整額	0	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	2	0
その他の包括利益合計	325	△353
四半期包括利益	934	439
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	939	440
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△0

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

当社の税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

（会計方針の変更）

（税金費用の計算方法の変更）

従来、当社の税金費用については、原則的な方法により計算しておりましたが、当社グループ四半期連結決算業務の一層の効率化を図るため、当第１四半期連結会計期間より(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)に記載の方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

（セグメント情報等の注記）

１　報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前第１四半期連結累計期間(自　2025年４月１日　至　2025年６月30日)

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他（注１）	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
	糖類	機能性素材	不動産	計			
売上高							
精製糖、砂糖関連製品	3,472	－	－	3,472	－	－	3,472
食品添加物	－	52	－	52	－	－	52
機能性食品	－	3,372	－	3,372	－	－	3,372
切花活力剤	－	－	－	－	54	－	54
顧客との契約から生じる収益	3,472	3,424	－	6,896	54	－	6,951
その他の収益	－	－	156	156	－	－	156
外部顧客への売上高	3,472	3,424	156	7,053	54	－	7,107
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	－	1	5	－	△5	－
計	3,476	3,424	157	7,058	54	△5	7,107
セグメント利益	584	288	142	1,015	10	△269	756

（注）１　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

２　セグメント利益の調整額△269百万円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。

３　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第１四半期連結累計期間(自　2026年４月１日　至　2026年６月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他(注１)	調整額(注２)	四半期連結損益計算書計上額(注３)
	糖類	機能性素材	不動産	計			
売上高							
精製糖、砂糖関連製品	3,357	－	－	3,357	－	－	3,357
食品添加物	－	69	－	69	－	－	69
機能性食品	－	3,622	－	3,622	－	－	3,622
切花活力剤	－	－	－	－	70	－	70
顧客との契約から生じる収益	3,357	3,692	－	7,049	70	－	7,120
その他の収益	－	－	153	153	－	－	153
外部顧客への売上高	3,357	3,692	153	7,203	70	－	7,274
セグメント間の内部売上高又は振替高	2	－	－	2	－	△2	－
計	3,359	3,692	153	7,205	70	△2	7,274
セグメント利益	628	498	138	1,264	20	△301	984

(注) １　「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。
２　セグメント利益の調整額△301百万円は、報告セグメントに帰属しない親会社の管理部門及び研究開発に係る一般管理費であります。
３　セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間(自　2025年４月１日　至　2025年６月30日)	当第１四半期連結累計期間(自　2026年４月１日　至　2026年６月30日)
減価償却費	42百万円	54百万円

(重要な後発事象)

該当事項はありません。